

中国の食糧戦略と東北農業

立命館大学経済学部 高屋和子

はじめに

世界的気候変動や人口増加により食糧¹需給の安定性に懸念が示されて久しいが、そこに中国をはじめとするアジア、新興国の経済成長とそれに伴う食糧需要増加が加わり、さらにその懸念が高まっている。中国では現在のところ高い食糧自給率を維持しているが、その輸入は増加しており、国内での食糧生産・流通の強化とともに、世界市場での調達強化が課題となっている。そこで、報告ではまず、中国の食糧生産と流通の変遷を食糧安全保障の観点から概観する。その後食糧生産の問題と輸入の増加について述べ、食糧の国内での増産とともに、海外での調達強化が不可欠であり、すでにその海外戦略が着実に進められている点を明らかにする。次いで、中国最大の食糧生産地である東北地域の食糧生産・流通の現状を明らかにし、世界的食糧調達の展開が行われる中でのこの地域の課題と戦略を考察する。

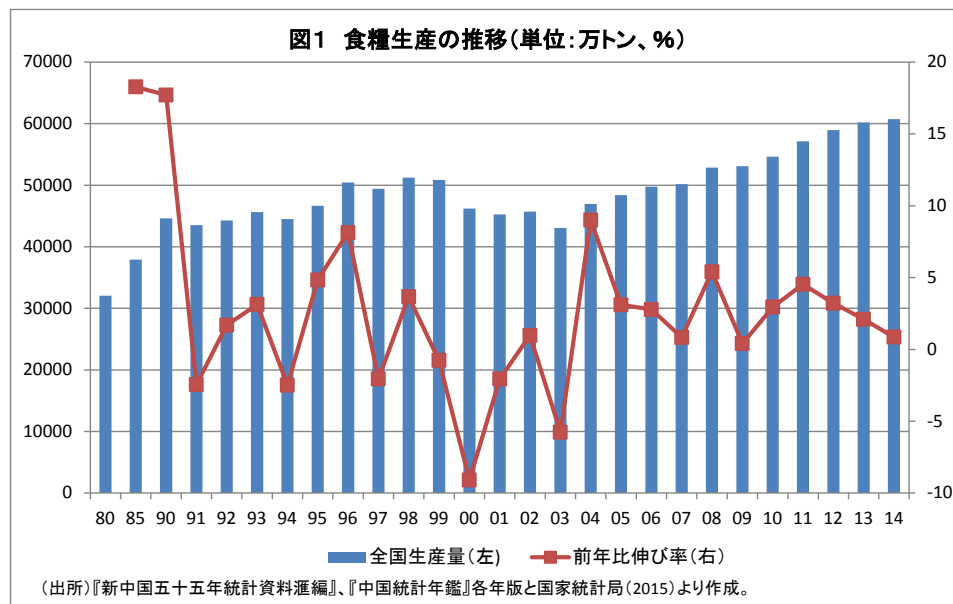
1. 中国の食糧生産・流通の現状と海外戦略

1. 1 食糧生産と流通

中国の食糧生産は、改革開放以降農家経営請負制が全国的に普及し、農産物増産を促進するために買付価格が引き上げられると増産に向かい、1998年には生産量は5億トンを超え最高を記録した。しかし、その一方で、増産により価格が低下し始めた。1997年に前年比で一気にマイナスに転じ-7.9%となり、その後2003年に回復し2.3%となるまでマイナスが続いた。この価格低下は農家の生産意欲に影響し、生産は減少に向かった。また政府は、食糧買付企業は保護価格で農民が抱える余剰食糧を買取ることとしつつも、財政的観点からその買付価格を引き下げ、範囲も縮小した。この間、食糧生産が需要を下回る局面も現れ、政府は備蓄食糧を放出するなど供給を補うとともに、減産による価格上昇を抑えるため、価格を人為的に低く抑え、さらに農家の生産意欲を低下させた。生産維持や価格維持のための政策が、かえって農家生産の安定性に影響を与える結果となった。

その後食糧生産は2004年頃から回復し始め、生産量も2007年には再び5億トンを、2013年には6億トンを突破し、2004年以降2014年まで11年連続増産を達成している。これは政府による食糧生産農家への直接補助や優良品種への補助、保護価格による余剰食糧買付と価格引き上げ、垂直的な省長責任制による食糧増産促進などが功を奏したものと考えられる。一方、政府は食糧生産の安定と増産のために積極的に食糧市場に介入している。例えば、20018年の世界的穀物価格高騰による輸出抑制から供給が過剰となったが、それに

¹ 中国で食糧（中国語では「糧食」）という場合、穀物（コメ・小麦・トウモロコシ・高粱・粟・その他雑穀）に豆類（さやを除いた乾燥豆換算）、イモ類（サツマイモ・馬鈴薯、5分の1換算）が含まれる。本章で食糧という場合はこの定義に基づく。



対し政府は備蓄買付を増加する臨時買入を 2008 年 10 月から 2009 年 6 月までに 6 回実施し(阮蔚,2009)、国内価格低下の抑制に貢献した。

政府は改革開放以降、食糧買付の多元化・自由化を徐々に進めてきた。1985 年には食糧買付制度が実施され、国営食糧部門が農家と契約を結び、買付を実施することとなったが、契約外の食糧に関しては自由な販売が認められ、卸売市場が相次ぎ設立された。1998 年以降政府は食糧流通体制改革に取り組み、2004 年には国务院から「食糧流通体制改革をさらに進化することに関する意見」を発し、食糧買付市場を全面開放することが決定され、国有買付企業以外にも、認可を受けた食糧加工、飼料生産企業による直接契約購入が認められるようになり、食糧買付主体の多元化が進められた。しかし、『2014 中国糧食発展報告』によると、2013 年で各種食糧買付企業が買付けた食糧は 3 億 1016 万トンであったが、うち国有食糧企業の買付が 1 億 6862 万トン(全体の 54.4%、以下同)で、その他非国有企業の食糧買付が 9654 万トン(31.1%)、飼料・養殖業・工業など食糧を原材料として購入する企業の買付が 4500 万トン(14.5%)と、半数以上が国有食糧企業による買付となっている。さらに備蓄や価格維持のために実施される政策性の買付は 7409 万トン実施されている。つまり食糧流通市場の多元化や市場化が進められているものの、食糧買付やその流通に政府が直接、間接に関与していると言え、その中で国有食糧企業の果たす役割は大きいと考えられる。

1. 2 食糧播種面積と生産性

中国でも所得の向上とともに、動物性タンパクの摂取量が増加しており、飼料作物を中心に食糧需要は高まっている。さらに食用油の消費も増加しており、その原料となる大豆については、中国はすでに輸入大国となっている。トウモロコシなど飼料作物が不足し輸入が増加する傾向にあり、食糧生産の安定は重要な課題である。しかしながら、その生産

安定の基礎となる食糧作付面積は減少している。1978年の1.2億haあまりから2003年には1億haを割り込んでしまい、その後政府による生産奨励や、省長責任制による耕地管理の強化などにより作付面積は微増したが、2013年で1.11956億haと、何とか1億haを維持している状態である。農業生産の多様化、都市化や工業化が進展するなか、今後大きく食糧作付面積が広がるとは考えられず、その生産性の向上が食糧供給安定のカギとなる。

改革開放以降農薬、肥料などの農業資材の投入も増加しており、食糧生産の単収は増加している。食糧の単収は1978年に2527.3kg/haであったが、2013年には5376.6kg/haと倍以上になっている。しかし単収が伸びているにもかかわらず、その収益は低い。表1は1畝（約15分の1ha）当たりの穀物生産コストとその収益を、表2は大都市での野菜生産の平均コストと収益状況を見たものである。穀物生産、野菜生産ともにコストは上昇しているが、利潤率は一貫して野菜生産の方が高い。穀物生産の利潤率は低いだけでなく大幅に下げる年がある。2003年は1997年以降穀物価格が低迷している時期であり、2013年は南部で干害や台風被害が多く、食糧の主産地である東北では降水量が多かった年で、その影響で単収も下がっている。その一方で総コストは上がり続けており、かなり利潤率が悪くなっている。その収益の不安定性は顕著であるが、加えて食糧は国際価格にも影響されやすく、2013年は世界的に穀物価格が抑えられた年でもあった。そもそも食糧生産は土地集約型であり、中国の特徴である零細経営では不利である。それは表1、2からも明らかで、労働集約的作物である野菜栽培の1畝あたりの生産高や収益と、土地集約的作物である穀

表1 1畝あたりの穀物（コメ・小麦・トウモロコシ）生産平均コストと収益状況（単位：kg、元、%）

	生産量	生産高	総コスト	純利潤	現金コスト	現金収益	コスト利潤率	利潤率
2003	344.2	411.2	377.0	34.2	199.8	211.5	9.1	8.3
2004	404.8	592.0	395.5	196.5	218.0	373.9	49.7	33.2
2005	393.1	547.6	425.0	122.6	228.8	318.8	28.8	22.4
2006	403.9	599.9	444.9	155.0	243.2	356.7	34.8	25.8
2007	410.8	666.2	481.1	185.2	261.7	404.6	38.5	27.8
2008	436.6	748.8	562.4	186.4	314.6	434.3	33.1	24.9
2009	423.5	792.8	600.4	192.4	326.1	466.7	32.0	24.3
2010	423.5	899.8	672.7	227.2	348.5	551.4	33.8	25.2
2011	442.0	1041.9	791.2	250.8	399.7	642.2	31.7	24.1
2012	451.4	1104.8	936.4	168.4	449.7	655.1	18.0	15.2
2013	444.7	1099.1	1026.2	72.9	473.8	625.3	7.1	6.6

（注）生産高＝実際に販売し得た収入＋（自家消費・在庫・その他農家の手元に残っている農作物×すでに販売した作物の総合平均価格）、総コスト＝生産コスト（家庭内労働を換算したものを含む）＋土地コスト（借地料等）、純利潤＝生産高－総コスト、現金コスト＝現物・サービス費用＋給与支払い＋借地料、現金収益＝生産高－現金コスト、コスト利潤率＝純利潤／総コスト×100、利潤率＝純利潤／生産高

（出所）国家発展和改革委員会価格司編（2009,2014）より作成。

表2 1 畝あたりの中大都市野菜生産平均コストと収益状況（単位：kg、元、％）

	生産量	生産高	総コスト	純利潤	現金コスト	現金収益	コスト利潤率	利潤率
2003	3314.4	2652.1	1311.2	1340.9	800.1	1582.0	102.3	50.6
2004	3573.4	3325.9	1763.0	1562.9	991.3	2334.7	88.6	47.0
2005	3412.2	3350.6	1743.9	1606.7	990.7	2359.9	92.1	48.0
2006	3501.9	3483.8	1973.9	1509.9	1136.6	2347.2	76.5	43.3
2007	3567.5	4329.3	2102.5	2226.8	1227.0	3102.3	105.9	51.4
2008	3568.4	4097.8	2216.1	1881.7	1274.7	2823.1	84.9	45.9
2009	3570.5	4398.3	2310.5	2087.8	1303.2	3095.1	90.4	47.5
2010	3503.5	5475.4	2698.5	2776.9	1543.2	3932.2	102.9	50.7
2011	3781.7	5537.2	2979.5	2557.7	1541.0	3996.2	85.8	46.2
2012	3883.2	6099.7	3644.7	2455.0	1883.3	4216.5	67.4	40.2
2013	3834.5	6903.2	4050.9	2852.3	1969.0	4934.2	70.4	41.3

（注、出所） 同上。

物のそれらには大きな隔たりがある。

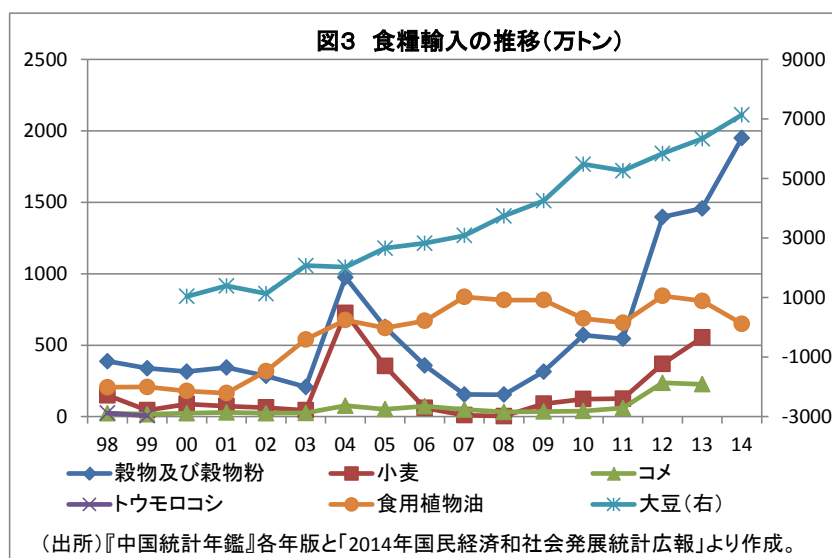
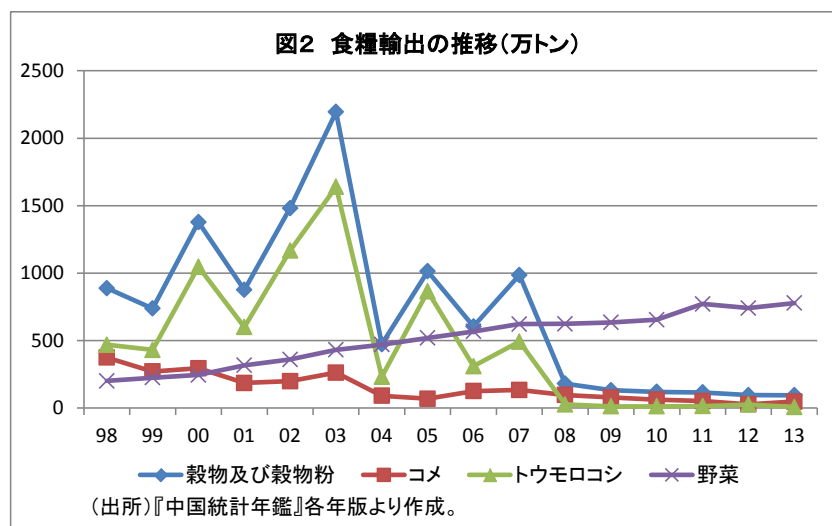
中国政府は農産物の流通や加工にかかわるリーダー企業＝龍頭企業の育成を進めており、食糧においても例外ではない。しかしながら食糧の流通や加工においては、歴史的に国有企業が多く、また食糧安全保障の面からも国や国有部門の関与が強い。先ほど見たように食糧買付においては依然として国有食糧企業がかなりを掌握しており、またその関連加工会社も多い。彼らは契約買付を進めており、その面からも食糧栽培農家の収入安定や品質の安定に貢献するとともに、今後は農地集約など生産効率化においてもその貢献が期待される。政府は後で述べるように食糧安全に関する長期計画と増産計画を制定し、食糧生産の拡大と自給率維持を目指している。また近年食糧生産地域と消費地域の二極化が進展し、生産地域から消費地にいかに効率よく食糧を輸送するかも課題となっており、2007年には「食糧現代物流発展計画」を制定し、流通近代化を目指している。その他加工業の発展促進や、生産農家への直接補助、保護価格での買取りなどの生産奨励と生産維持策を実施しており、生産、加工、流通など一連の食糧産業チェーンを形成することが重要な課題となっており²、その一翼を担っているのが国有食糧企業グループである。

1. 3 食糧輸入の増加

上述のように中国は長年食糧不足に悩まされてきたが、一方で食糧を輸出している国でもあった。図2からもわかるように、近年においても年によってばらつきはあるものの、2000年代半ばごろまでトウモロコシを中心に輸出が行われてきた。しかし2003年の2354.6万トンの食糧輸出をピークに輸出は減少し続け、2013年には1997年以来最低水準を更新し、コメ47.8万トン（68%が韓国への輸出）、小麦27.8万トン（同56%が北朝鮮、38%が香港）、トウモロコシ7.8万トン（ほとんどが北朝鮮向け）を含む243.1万トンとなった。食糧の輸出が減る一方で、野菜の輸出が順調に伸びている。

² 中国の食糧政策と産業チェーン形成の重要性については、高屋（2010）で詳しく分析した。

次いで輸入の状況を見てみよう（図3参照）。WTO加盟以降中国の農産物輸入関税は段階的に引き下げられ、穀物を中心に一部作物・製品については関税割当が導入された。穀物（ここではコメ、小麦、トウモロコシ）の割当量は加盟当初の1440万トンから2011年には2215.6万トン（小麦、コメ、トウモロコシ、税率1～6%）と増加している。その後もこの割当量は維持されており、2016年度の割当量は小麦963.6万トン、トウモロコシ720万トン、コメ532万トンで、合計2215.6万トンの枠が維持される。現在のところ実際の輸入量はこの割当枠一杯にはまでは至っていないものの、その輸入量は着実に増加している。大豆と食用植物油の輸入は一貫して増加している一方、穀物輸入は年によって差があるものの、2004年を除き大きな伸びが見られなかった。しかし、輸出の減少に呼応するように、2009年以降食糧輸入量は増加しており、2012、2014年は大きく輸入を増加させている。2013年の内訳では小麦は663.5万トン（割当量の57%）、トウモロコシは326.6万トン（同45%）、コメは227.1万トン（同43%）となっている。いずれの作物も輸出量を大きく上回り、純輸入国となっている。



中国はトウモロコシ輸入量の 90%をアメリカに依存している。一方 2012 年のアルゼンチンやウクライナに次ぎ、2014 年 4 月にはブラジル産トウモロコシの輸入を解禁すると発表し、調達先を拡大している。急増する需要を満たすとともに、アメリカ依存を弱めることを狙っていると見られる³。アメリカに次ぐ世界第 2 位のトウモロコシ生産国である中国の生産が、増加する国内需要を賄いきれなくなりつつある状況が鮮明になり始めている。その他、小麦もアメリカ、カナダ、オーストラリアから輸入しており、アメリカが全輸入の 69%を占めている。大豆はすでに 2010 年で 5480 万トンの輸入が行われており、世界の大豆総輸出の 6 割近くを占めるに至っているが、その後も増え続け 2013 年で 6338 万トン、2014 年にはついに 7000 万トンを突破し 7140 万トンに及んでいる。その輸入の約 5 割がアメリカ、35%がブラジルである（2013 年）。コメはベトナムからの輸入が多く、ベトナム産が 65%を占めている。コメ以外のアメリカ依存が目立つ。

政府は様々な生産奨励策や備蓄政策、価格保護策、流通・加工の発展促進を打ち出し、食糧生産・供給の安定、加工・物流の発展と近代化を図っている。しかし、高まる需要に中国国内において中長期的に供給不足が生じる可能性は高く、今後も輸入は増加するだろう。政府は食糧安全を国民経済発展、社会の安定、国家の自立に関わる重大な戦略問題と位置づけ、2008 年に「国家食糧安全中長期計画綱要（2008～2020 年）」（以下「中長期計画」）を公布した。「中長期計画」では、まず食糧需要について、2010 年の食糧総需要を 5 億 2500 万トン、2020 年には 5 億 7250 万トンと予測しており、そのなかで食用需要は減少すると見ており、一方飼料需要が全体の 36%（1 億 8700 万トン）から 41%（2 億 3550 万トン）に増加すると予測している。2009 年には「全国食糧生産能力 5000 万トン新增計画（2009～2020 年）」（以下「増産計画」）が出された。この「増産計画」では「中長期計画」の予測に基づき、2020 年時点で 4500 万トンの食糧不足が生じるとして、それを補うべく 5000 万トンの増産計画を打ち出している。

国内の増産による自給率の確保とともに、重要な柱となるのが輸入及びその安定確保のための対外農業投資である。「中長期計画」の中でも、農業の海外進出による輸入確保が明確に述べられており、さらに 2010 年の一号文件では「国際農業科学技術・農業資源開発協力を強化し、奨励政策を制定し、条件の整った企業の‘走出去（海外進出）’を支援する」と述べられるなど、対外農業投資による安定供給確保が課題となっている。2012、2013 年の一号文件でも食糧の安定生産と流通の問題に言及しており、さらに 2014 年一号文件では、食糧安全保障において、国際農産品市場を合理的に利用するとして、農業‘走出去’戦略の実施を加速すると述べている。次いで、2015 年一号文件でも食糧生産能力の強化とそのための農業投資強化、国際国内両方の市場をバランスよく利用することが謳われている。

食糧については、安定調達に向け各国、企業が争奪戦を繰り広げており、生産国・地域における調達とともに、集荷・輸送設備の確保、販路の拡大による購買力強化が進められ

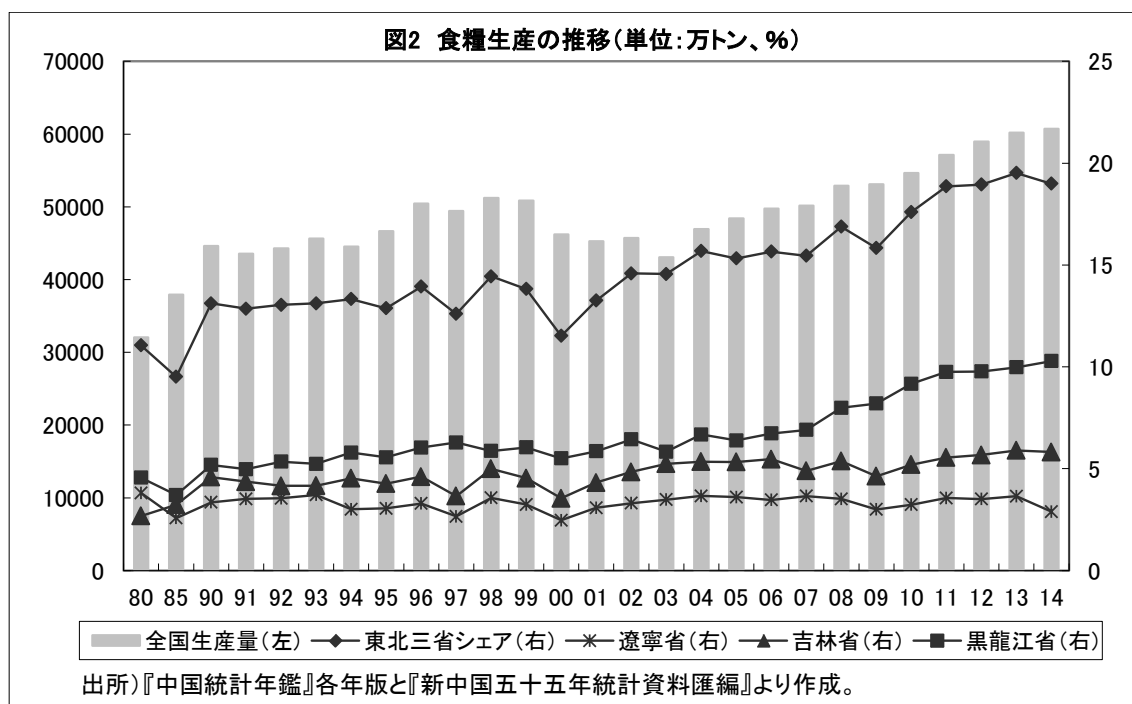
³ 「日本経済新聞」2014 年 4 月 9 日朝刊。同記事によると、中国政府は 2013 年に未承認の遺伝子組み換え成分が発覚したとしてアメリカ産トウモロコシ数 10 万トンを港で突き返した。

ている。集荷会社や加工食品企業への出資、買収、提携、港湾設備の取得が行われているほか、現地の農業事業や農業会社への直接出資や提携を進めるなど、農業生産そのものへの展開も始められている。川上にあたる調達のみではなく、輸送、加工・販売にまでいたる川下までを含めたサプライチェーンの構築が盛んに取り組まれており、中国でも食糧企業の競争力強化、調達力強化が課題となっている。

2. 東北地域の食糧生産と供給とその戦略

2. 1 東北地域の食糧生産と供給

東北地域は中国において重要な食糧生産地域であり、食糧生産に占めるシェアも高まってきた（図2参照）。遼寧省、吉林省は大きなシェア拡大は見られないが、黒龍江省については2008年頃からそのシェアを伸ばしてきており、東北全体のシェア拡大に貢献している。



一方で、東北地域を始めとした主産地と消費地との二極化が進んできており、主産地から消費地への効率的な輸送が課題となっている。食品輸送において2～3割が廃棄されていると言われており、その近代化、効率化は大きな課題である。既述のように2007年には「食糧現代物流発展計画」を制定し、流通近代化に取り組んでいるが、近年食糧輸入が増加している中で、輸入作物との競合を考えれば、生産面での効率化とともに、東北地域にとってその輸送の効率化は一層重要となってきた。特に近年その生産シェアを伸ばしている黒龍江省を始め、吉林省も海に面した港を持たないため、生産地と消費地のマッチングと、輸送面での工夫や改善が欠かせない。

表3 2014年作付面積に占める東北のシェア

			総作付面積	食糧					豆類
					穀類				
						米	小麦	トウモロコシ	
面積	全国		165446.0	112723.0	94603.0	30310.0	24069.0	37123.0	9179.0
	東北三省		22005.3	19932.2	16460.8	4514.7	151.9	11466.9	3070.3
		遼寧省	4164.1	3235.1	3032.4	562.1	5.8	2330.1	117.0
		吉林省	5615.3	5000.7	4595.0	747.1	0.4	3696.6	331.6
		黒龍江省	12225.9	11696.4	8833.4	3205.5	145.7	5440.2	2621.7
シェア	東北三省		13.3	17.7	17.4	14.9	0.6	30.9	33.4
		遼寧省	2.5	2.9	3.2	1.9	0.0	6.3	1.3
		吉林省	3.4	4.4	4.9	2.5	0.0	10.0	3.6
		黒龍江省	7.4	10.4	9.3	10.6	0.6	14.7	28.6

出所)『中国統計年鑑』2015年度版

表4 2014年生産量に占める東北のシェア

			食糧生産量					
				穀類				豆類
					米	小麦	トウモロコシ	
生産量	全国		60702.6	55740.7	20650.7	12620.8	21564.6	1625.5
	東北三省		11528.9	10761.1	3290.1	49.5	7247.4	550.8
		遼寧省	1753.9	1674.8	451.5	2.8	1170.5	25.7
		吉林省	3532.8	3420.8	587.6	0.1	2733.5	55.5
		黒龍江省	6242.2	5665.5	2251.0	46.6	3343.4	469.6
シェア	東北三省		19.0	19.3	16.1	0.4	35.2	31.8
		遼寧省	2.9	3.0	2.2	0.0	5.4	1.6
		吉林省	5.8	6.1	2.8	0.0	12.7	3.4
		黒龍江省	10.3	10.2	10.9	0.4	15.5	28.9

出所) 同上

さらに各作物の状況を見てみると、穀類の中ではトウモロコシのシェアが高く、東北三地域で生産量の三割以上を占めている。大豆も同様で中国における一大生産地となっている。しかしながら、大豆においてはすでに述べたように、生産国でありながら、今や世界輸出の6割以上を輸入する国となっている。早くから輸入が解禁されたこともあり、中国政府としては他の食糧作物と違い、輸入依存を致し方なしとしているとみられるが、直接食べるだけでなく、抽出した油やタンパクの利用も盛んで、絞った後の大豆ミールの飼料としての活用も増加している。輸入のアメリカ依存も懸念材料となっており、輸入先の多様化とともに、一大生産地である東北地域の生産維持、奨励、保管や輸送のさらなる近代化が重要であろう。トウモロコシについては、現在のところ輸入割り当てが余っている状況であるが、その輸入は徐々に増えており、特に南方での需要が高まっている。予測では2024年には輸入量が400万トンを超えるとされており、価格面でも2013年から国内価格が国際価格を上回っている（農業部市場予警専家委員会（2015），P.35。中国南方港湾国内外トウモロコシ価格比較）。国際価格は2012年の327.2ドル／トン进行ピークに値を下げており、一方国内では労働コストや土地コスト、農業資材価格の上昇から、生産コストは持

続的に上昇しており、内外価格差が今後も拡大する可能性が大きい。

このまま内外価格差が広がるようでは、生産奨励のための価格支持政策 - 政策性買付価格のこれまでのような引上げ - は難しくなり、食糧生産地としての生産維持と供給とともに、輸入作物との競争にもさらされる厳しい状況にあると言える。

2. 2 東北の食糧生産流通と北大荒集団

中国東北地域、特に黒龍江省は歴史的、地理的に国有農場が多く、農墾総局の役割も大きい。国有農場耕地面積は全国の 4 割強を占め、全省耕地面積でみると約 2 割を占める。また黒龍江省農墾総局⁴は北大荒集団という企業集団を形成しており、基本的には同一組織である。農墾総局＝北大荒集団の下に 9 つの管理局と 113 の農場、1048 の農林牧漁業単位、1793 社の法人企業を抱えている。

「2013 年黒龍江省農墾総局経済と社会発展統計広報」によると、2013 年の GDP は 1244.8 億元(対前年比 12.2%増)、第 1 次産業 585.6 億元(47.0%)、第 2 次産業 320.6 億元(25.8%)、第 3 次産業 338.6 億元 (27.2%)、人口は 172.3 万人で、一人あたり GDP は 7 万 2025 元となっている。‘農墾総局’ではあるものの 1 次産業比率が 50%を割り込んでいるが、第 1 次産業に占める耕種業の比率は依然として 77.1%と高く、次いで牧畜業が 21.3%を占めている。作付面積は 288 万 ha、うち食糧栽培面積が 280.3 万 ha (全作付面積の 97.3%) で、水稻とトウモロコシ生産が 87.7%を占め、ここ数年で食糧生産、特に水稻とトウモロコシの生産が拡大している。食糧生産高は 2121 万トンであった。2013 年の黒龍江省全体の食糧生産量の 35.3%を占める。

北大荒集団はコメ、小麦、油、食肉、乳業、イモ、種子などを支柱産業に据え、国家級・省級の龍頭企業(農業リーディングカンパニー)を 40 社抱えている。食糧加工能力は年 2700 万トン余り、「北大荒(コメ)」「完達山(乳業)」「九三(油・大豆加工)」などのブランドも持っている。龍頭企業、加工企業は契約栽培を進めており、国有農場だけでなくその他農家とも契約を結び、その生産管理と品質向上に関与している。食糧は土地集約的作物であり、規模経営が重要となる。また食品安全意識の高まりから生産から食卓までのサプライチェーン構築も課題となるなか、北大荒集団のような大型国有企業の存在意義は大きい。対外農業投資にも積極的に取り組んでおり、国外企業はロシア、オーストラリア、タイなど 13 か国に 26 社、土地開発面積は 304 万畝に達している。

黒龍江は地域的に流通面での課題が大きく、既述のような食糧廃棄の問題や、中間物流業者の多さなど流通近代化の面でも企業に対する期待は大きい。食糧流通の面からみると、北大荒集団は食糧倉庫貯蔵能力 2200 万トン、乾燥能力 2100 万トンを有している。前出の統計広報によると、交通運輸能力の増強にも力を入れており、2013 年末で道路建設投資は 24.2 億元(前年比 52.2%増、うち高速道路投資 12.3 億元)に達している。今後はさらに周

⁴ 以下農墾総局、北大荒集団についてのデータは黒龍江農墾総局 HP (<http://www.hlink.gov.cn/>) や北大荒集団 HP (<http://www.chinabdh.com/>) を参照した。

辺国・企業をも巻き込んだ開発・協力が必要である。道路・鉄道・港湾などのハード面並びに情報管理などソフト面も含めた輸送インフラ整備が重要であり、民間や外資も巻き込んだ様々な協力・建設プロジェクトの構築が必要である。

黒龍江省と吉林省は港を持たないが、ロシアや北朝鮮との協力により日本海側港湾からの輸送の展開が可能である。ロシア政府も「極東穀物回廊構想」を打ち出し、アジア諸国への輸出を構想している（農林水産省、平成 25 年 4 月）。中国東北、ロシア、韓国、そして日本の間では国際複合一貫輸送の構築が目指され、様々な実験、取り組みが実施されている。しかしながら特に日本海側に関しては現在のところ安定的な輸送ルート確立には至っていない。例えば、生産された農作物や加工品を中国（特に食糧が不足気味の南方）や第三国へ輸出する、あるいは生産・加工資材や機械などを周辺国・地域から輸入するなど、まさに中国～ロシア（北朝鮮）～中国、中国～ロシア～第三国といった国際複合一貫輸送の構築・整備により、中国南方地域やその他周辺国・地域と有機的に結合することが重要となつてこよう。食糧、穀物事業は生産もさることながら、その輸送は「装置産業」であるといわれるほど、集荷、貯蔵、積み入れ・積み出し、輸送を効率的に行うための設備や交通・情報インフラの整備に多くの資金と時間を必要とする。その点からも、周辺国間の協力は重要であり、周辺国や周辺国企業をも巻き込んでの開発・協力が必要となつてこよう。

もう一点注目すべき点は、国有企業改革からの側面である。中国最大の国有食糧企業である中糧集団は、これまでの国有企業改革の中で再編合併を繰り返してきたが、最近では 2013 年に国内最大の食糧物流企業である中国華糧物流 company を完全子会社として吸収した。その後も 2014 年にシンガポールの Noble グループの農業部門と、オランダの Nidera を買収するなど、現在資産は 719 億ドルを超え、336 の分支社が 140 余りの国・地域でネットワークを広げ、世界での貯蔵能力は 3100 万トン、年間取扱高は 1.5 億トン近く、年間加工能力は 8950 万トン、年間港湾処理能力は 5400 万トンに及ぶ⁵。食糧を始め食品、農畜産物全般にわたる生産、調達、貯蔵、物流、加工、販売に至るまでのグローバルな産業チェーンを展開する企業集団となっている。その他にも、外資食糧企業や日本の商社なども積極的に中国をはじめとする新興国の旺盛な需要を取り込み、販売力を強化するとともに、それにより自らの調達力を向上させ、さらに競争力を高めようとしている。既述のように、世界的に食糧争奪戦が繰り広げられ、生産国・地域における原材料調達のみならず、流通・加工・販売に至るまでのサプライチェーン構築が進められている。そのなかで、この地域においてもこのようなサプライチェーンが構築されるか否か、あるいは世界的サプライチェーン構築の動きに組み込まれていくか否かは、今後の同地域の農業開発・協力の展開、発展の大きな鍵となる。

⁵ 中糧集団有限公司 HP。

おわりに

中国の食糧生産は上述のように 2004 年以降 11 年連続で増産を続けている。97 年の増産による価格低下を経験し、政府は食糧生産維持、価格維持策を実施してきた。しかし、ここにきて中国の過剰な農作物在庫が問題になってきている⁶。これまで国際相場に影響を与えてきた中国の食糧輸入も一服するとの見通しである。中国政府は価格維持のための買い取り価格も引き下げを実施し、内外価格差の縮小により国産食糧の利用を促すとも見られている。生産の増加による輸入減は自給率維持の面からは朗報であるが、生産維持という面では厳しい局面が予想される。すでに述べたように中国の食糧生産の収益性は低く、政府による生産維持策に支えられてきたと言えるからだ。過去にも増産による価格低下、それを受けての減産といった大きな変動を経験しており、こういった価格変動に対する対応力の養成が課題となってきた。

食糧という安全保障にもかかわる戦略物資として、政府の関与は必要不可欠な部分があるが、その一方で生産や食糧産業全体の収益性の向上や活性化による生産・流通の安定化も欠かせない。中国では外資系食糧企業や商社がその拡大する市場の争奪を繰り広げ、供給のための調達力の強化にしのぎを削っており、中国の国有食糧企業もこの競争に参戦している。肥沃な土地と豊かな生産力を持つ一方、港を持たず輸送の面で不利で、国内の南方消費地から距離のある東北地域にとって、このグローバルな産業チェーン展開に積極的に加わることが今後の重要な発展の鍵となるとみられる。

高屋和子 (2010)「中国の食糧生産と食糧産業チェーン形成の必要性」『経済学雑誌』第 111 巻、第 3 号、pp. 74-94

高屋和子 (2014)「中国の食糧政策と対ロシア農業投資 - 黒龍江省を中心に - 」『立命館経済学』第 63 巻、第 3、4 号、pp.17-38

農林水産省 (平成 25 年 4 月)「海外農業投資をめぐる状況について【ロシア】大臣官房国際部」(<http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokkyo/toushi/pdf/1304rus1.pdf>)

阮蔚 (2008)「高まりつつある中国の米州大陸への食料依存 - 穀物メジャーの参入で変わる中国・ブラジル的大豆産業 - 」『農林金融』3 月号、pp. 15-29

阮蔚 (2010)「中国・インドの穀物需給動向 - 中印の輸出入動向に揺さぶられる国際穀物市場 - 」『農林金融』3 月号、pp. 22-38

阮蔚 (2011)「純輸入に転じた中国のトウモロコシと世界市場への影響 - 工業用が押し上げる需要 - 」農林中金総合研究所『調査と情報』第26号 (<http://www.nochuri.co.jp/>)

国家発展と改革委員会価格司編 (2009)『全国農産品成本収益資料匯編 2009』中国統計出版社

国家発展と改革委員会価格司編 (2014)『全国農産品成本収益資料匯編 2014』中国統計出版社

⁶ 「日本経済新聞」2016 年 2 月 24 日朝刊

国家糧食局（2014）『2014 中国糧食發展報告』經濟管理出版社

国家統計局（2015）「2014 年国民經濟和社会發展統計広報」

http://www.stats.gov.cn/tjsj/zxfb/201502/t20150226_685799.html

国家統計局編『中国統計年鑑』中国統計出版社、各年版

国家統計局国民經濟綜合統計司編（2005）『新中国五十五年統計資料匯編』中国統計出版社

国家統計局農村社会經濟調查司編『中国農村統計年鑑』中国統計出版社、各年版

農業部市場予警專家委員会（2015）『中国農業展望報告（2015－2024）』中国農業科学技術出版社

商務部（2015）「2014 中国对外投資和經濟合作狀況」

<http://www.mofcom.gov.cn/article/i/jyjl/k/201501/20150100877244.shtml>

肖春陽（2012）『国有糧食企業發展』經濟管理出版社

中国糧油食品輸出入（集团）有限公司（1999）『中糧誌』

中国農懇 HP（2014）「關於加快實施農業“走出去”戰略的幾点思考」

<http://www.chinafarm.com.cn/ShowQkArt.php?url=AT1QNVk5CDhQZQRp>

中糧集团有限公司 HP <http://www.cofco.com/cn/>